

鎌倉にも比肩する寺社建築

牧丘町（現山梨市牧丘町）の竹藪を購入・開墾して畑にし、週末農業を始めて30年を超えた。山梨県はブドウ、桃をはじめとする果樹王国として有名であるが、寺社や庭園の「宝庫」でもあることは意外と知られていない。金や水晶等の鉱物資源に恵まれていることもあってか、京との交流も盛んで文化度は高く、国宝に指定されている寺社も多い。したがってこれら寺社の建築を可能にする大工棟梁の質量もかつては豊富で、JR塩山駅北口近くにある甘草屋敷に代表されるように、寺社にとどまらず木造の素晴らしい民家も多い。

施主のオーダーどおりに建築

ところで筆者の畑の地目は宅地である。農地法の関係で宅地でないで購入できなかったもので、現況は畑であるものの、宅地への転用を義務付けられ、宅地であることを証明するために住宅の基礎工事を求められた。止む無く借金を

して家を建てたのであるが、地元、それでもできるだけ近くの大工さんをお願いするのがよからうということ、大工棟梁のHさんをお願いした。家内が、勿論、素人ではあるが、建築や設計に興味があり、畑から2kmほどのところにあ

とも、週末農業が続いている大きな理由の一つでもある。これが縁で、Hさんとはよく酒を酌み交わして懇意にさせてもらっている。**いなくなった補修できる職人** したがってHさんとの親交は30年

時流を読む

荒れる森と 伝統木造建築の減少

農的社会的デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

る、当地では花の寺として知られる放光寺なる、白壁と木組みの美しい寺をイメージして設計図を書いた。Hさんはほとんどこれを手直しすることなく、また当方で指定した予算で仕上げてくれた。この建物・自宅が気に入っているこ

にもなるが、お付き合いを始めて間もなく、いわゆる住宅メーカーの攻勢によって仕事は減り、材木を切ったり、建材を成型したりする機械の稼働率も大きく低下。Hさんも80を超えてもう仕事は卒業しつつあった。ところが、ここにきて忙しさが

復活。建ててしばらくたった住宅メーカーが建てた家の補修が必要になっても、住宅メーカーは建て替えるをすすめるだけ。補修する場合には、とんでもない補修費用を持ち出してくるらしい。そこで次々に補修をHさんに泣き込んでくるという。Hさんに後継者はなく、かつて一緒に仕事をしていた大工仲間もすっかり減ってしまい、もう補修できる時代ではなくなると嘆く。

伝統構法を排除する建築基準法

こうした事態は建築基準法に大きな原因があるようだ。伝統構法の特徴である建物と礎石を分離し、ずれることで揺れを吸収。壁構造ではなく木組。金具ではなく木を加工しての接合等は建築基準法では蚊帳の外に置かれてしまっている。この影響でプレカットした集成材をポルト・ナットで組み立てるだけに。これが職人を減らし、村の活力を削ぎ、森林の荒廃と低木材自給率を招いている。悪循環と日本文化の喪失がこのまま放置されていいわけはなからう。